全社規模のデータ活用を継続的に運用する DataOps の研究

アブストラクト

1. 背景と研究テーマ

近年、各企業において競争力維持・強化のために、デジタルトランスフォーメーション（DX：Digital Transformation）をスピーディーに進めていくことが求められている。経済産業省の『DX レポート』に「DX を実行していくに当たっては、データの利活用が鍵となる。」と記載がある通り、競争力維持・強化に向け最も重要となる要素の 1 つにデータの利活用が挙げられる。しかし日本企業の多くはデータ利活用がうまく進められていない、ということが各種データから分かってきた。本分科会ではこの現状を打破すべく、近年注目される DataOps という新しい考え方を取り入れつつ、現状のデータ利活用に関する課題を抽出して、日本企業がまず取り組むべき優先度の高い課題を洗い出し、解決案を策定することをテーマとする。

2. DataOps の定義

DataOps は、従来のデータ利活用法と異なり、全社的なデータ利活用を推進し、かつ継続的に改善するための部署間コミュニケーション等を取り入れたフレームワークとして、近年注目されている考え方である。Gartner 社等各社が様々に定義をしている状態であり、DataOps がなにか、明確な指針があるものではない。本分科会では DataOps を以下の通り定義した。

(1) データ利用者とデータ管理者の相互コミュニケーションを通した、データ利活用の継続的な改善
(2) データ利活用の全社的な統合と自動化

3. 課題と仮説

日本企業の多くが効果を得られていない要因を検討するため、参加メンバーの所属企業における事例を抽出し、全社規模のデータ利活用を阻害する問題についてディスカッションを実施。結果課題としては、データマネジメントルールやガバナンスに従ったデータ利用者とデータ管理者との間でコミュニケーションが取られておらず、データ利活用が継続的に改善されないという点があると分析した。課題を解決する仮説として、ガバナンスルールに基づいたコミュニケーションにより企業のビジネス価値を高めることが共通認識となるようなワークショップを開催すること、各社のガバナンスルールを策定する際に役立つ課題解決ヒント集を提供することの 2 点を設定。ワークショップについてはカリキュラムと教材を、課題解決ヒント集についてはリスト形式のファイルをそれぞれ作成した。

4. 検証結果

仮説に対する検証として、分科会メンバーの所属企業に対しアンケートを実施。結果、ワークショップ用のカリキュラムと教材、課題解決ヒント集についてはそれぞれ全社規模のデータ利活用に繋がるコミュニケーションの活性化に有用であることが確認された。

5. まとめ

本分科会では、全社規模のデータ利活用を継続的に運用する方法として DataOps の観点から、日本企業が抱える課題を洗い出し対策の検討を行った。ワークショップ教材、課題解決ヒント集がそれぞれ、日本のデータ利活用推進の一助となることを期待する。